



# 施設だより

ひこね市文化プラザ ☎26-8601 FAX 26-8602  
9月の休館日:3月・10月・18火・25火

10月7日(日) 13:30~  
**お楽しみコンサート「芸術の秋」**  
内容 迫力あるキーボードオーケストラの演奏と、映像を交えた音楽物語など、盛りだくさんの内容です。  
出演 キーボードオーケストラ「楽」  
【鑑賞無料】

10月12日(金) 18:30~  
市民に贈る「吹奏楽の夕べ」  
**フリヂストーン吹奏楽団久留米演奏会**  
自由 入場無料(ただし入場整理券が必要)  
【9月6日(木)入場整理券配布開始(配布は一人2枚まで)】  
☆入場整理券配布場所  
ひこね市文化プラザ チケットセンター、彦根市民会館、みずほ文化センター

10月20日(土) 18:30~  
天体観望と音楽を楽しむロマンチックコンサート!!  
**スカイウォッチャー演奏会**  
自由 シングル券200円、ペア券300円  
【好評発売中】

11月10日(土) 19:00~  
**アリス=紗良・オット ピアノリサイタル**  
自由 3,000円  
【好評発売中】

12月2日(日) 14:30~  
**人形劇団京芸「潜水海賊キャプテン・グック」**  
会場 みずほ文化センター・ホール  
自由 シングル券 1,200円(当日1,500円)  
ペア券 2,000円(当日2,500円)  
【9月23日(日)発売開始】

12月12日(木) 18:30~  
**劇団四季 ミュージカル「エビータ」**  
指定 S席8,400円、A席6,300円、B席5,250円  
【9月30日(日)発売開始】  
※窓口販売9:00~、電話予約11:00~  
※窓口で完売した場合、電話予約はいたしません。

12月16日(日) 14:00~  
**第10回記念 ひこね市民手づくり第九演奏会**  
指揮者 松尾葉子  
自由 前売1,500円(当日2,000円)  
【9月16日(日)発売開始】

## ひこね市民大学講座

9月22日(土) 14:00~  
**第2講 「片目を失って見えてきたもの」**  
ピーコさん(ファッションジャーナリスト、タレント、シャンソン歌手)

10月13日(土) 14:00~  
**第3講 「21世紀の提言 ~新しい世代を育てる~」**  
金 美齢さん(JET 日本語学校理事長、評論家)  
☆料金: 全席自由 4,000円 【好評発売中】  
※1 講座のみの購入はできません。  
※未就学児の入場はお断りします。

マーク: 託児サービスがあります。(要予約)  
※公演日の1週間前までにご予約ください。  
マーク: 公演終了後、彦根駅行き・南彦根駅行きの臨時バスの便があります。

チケットのお申し込み、お問い合わせは  
**チケットセンター ☎27-5200 (9:00~19:00)**

彦根城博物館 ☎22-6100 FAX 22-6520  
9月に休館日はありません。

入館受付時間 8:30~17:30

※築城400年祭開催期間中は、開館時間を上記のとおり延長します。  
なお、9月24日(月)~同27日(木)は展示替え作業のため、入館受付は17:00までとさせていただきます。

## 百景繚乱 - 彦根歴史絵巻 -

9月27日(木)まで  
巻の6 「幽玄-井伊家伝来・能面と能装束の名品-」

井伊家伝来の能面・能装束は、演能に必要なほとんどの種類を網羅する大揃い。この中から、選りすぐりの逸品を一堂に会します。



▶能面 童子

9月28日(金)~10月26日(日)  
巻の7 「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」

保存修理後、初めての「彦根屏風」のお披露目です。部分の拡大写真や、修理の際に新しく分かったことも公表します。あわせて、幕末明治の彦根を華やかに彩った湖東焼の逸品も紹介します。



▶彦根屏風(双六をする人々)

国宝・彦根城築城400年祭特別企画展

常設展の名品

ギャラリートーク  
「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」  
9月29日(土) 14:00~15:00  
解説:本館学芸員 高本文恵(たかみ ぶんえ)、小井川 理(こいかわ りん)  
※事前申込は不要です。当日館内講堂にお集まりください。

## ほんのりとの会 - 徳川譜代大名筆頭・井伊家伝来の名宝 -

譜代大名筆頭・井伊家に伝来した大名道具を中心に、日本の美と歴史にせまります。

市民体育センター ☎23-2293 FAX 23-2294  
9月の休館日:4火・11火・18火・25火

9月9日(日) 9:30~11:30  
**フレッシュスポーツデー ニュースポーツの部**  
予定種目 ダブルダッチ、スーパーカロム、囲碁ボール ほか  
参加費 小学生以上 1人200円(当日お支払いください)  
※運動のできる服装と、体育館シューズが必要です。

10月28日(日) 14:30~  
**デューク更家 からだリセットウォーキング塾**  
自由 500円(小学生以上) 【好評発売中】  
※必ず、上靴をご持参ください。  
※託児サービスがあります。(10月21日(日)までに要予約、定員になり次第締切)

チケット販売所  
ビバシティ彦根 ぐらしのサービスセンター、  
アル・プラザ彦根 ぐらしのサービスセンター、  
ひこね市文化プラザチケットセンター、市民体育センター



▲紙本金地着色風俗図(彦根屏風) 全図

日本の絵画は一般に、1000年から2000年間に本格的な修理を必要とする時期が到来します。その大きな理由のひとつに、絵の具の接着剤として使われる膠の接着力が年月とともに弱まることがあります。  
彦根屏風は、江戸時代前期、寛永年間(1624~1644)に描かれたと考えられています。当然、これまでに修理の手を経ており、おそらく幕末ごろ、遅くとも明治初期までには本格的な修理が行われたようです。  
一見ただけでは分かりにくいのですが、前回の修理から150年以上が経過し、全体に絵の具層が弱り、本紙から浮き上がった箇所も見られ、そのまま放置すると剥落してしまふ可能性が高いことが保存上の問題となっていました。そして、屏風の形を解かれて6枚に分割されていたこともあり、画面を修理し、本来の屏風装に復すことを目的に、文化財保存修理を行うことになりました。修理は、国と県の補助金を受けて、文化庁の指導のもとに、平成18年から2年間をかけて慎重に行いました。

修理では、絵の具の剥落止めに膨大な時間を



▶写真2

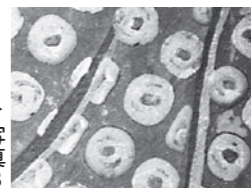
刀の鐔は、金属の質感と立体感を表すために、胡粉で盛り上げ、その上に銀泥、さらにその上に金泥を塗っています(写真2)。また、小袖という着物



▶写真1

例えは髪の毛。ほつれ毛は、現実の髪の毛かと思わせる細さで、しかも、しっかりとした筆致で描いてます(写真1)。まとまった部分の髪は、油でまとめたことを表すために照りをつけています。

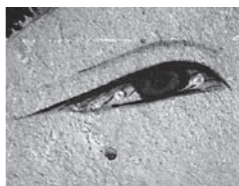
大変な作業ではありませんが、実は、この筆致の細かいところが、彦根屏風の大きな魅力です。単に細かいだけでなく、ものの質感までも表そうとしているのは、当時の絵画としては特筆すべきことです。



▶写真3

さらには、登場人物すべての目には、目に反射する光を表すために、白目の部分に白い点を置いてあります。

りの表現は、白い円だけでなく十分細かいのですが、絞りの立体感を表すためか、さらに細い線を入れてあります(写真3)。



▶写真4

この点は、なんとミリの3分の1程度という大きさです(写真4)。このように、間近に肉眼で見ると判別できる多様な表現の積み重ねによって、彦根屏風は、深みのある重厚な印象を与えるのです。

(彦根城博物館学芸員 高本文恵)

彦根屏風は、9月28日(日)~10月26日(日)に開催される、国宝・彦根城築城400年記念特別企画展「百花繚乱-彦根歴史絵巻-」巻の7「よみがえった国宝・彦根屏風と湖東焼の精華」で、修理完成後初めてのお披露目をします。

# とまきの玉手箱

博物館からのメッセージ

